

水稻品種「こいむすび」の栽培法（第75号追補）
 栽植密度，幼穂形成期生育量及び収量構成要素の目安

古川農業試験場・農業センター

1 取り上げた理由

平成11年に奨励品種に採用された水稻品種「こいむすび」の施肥法については普及に移す技術第75号に示した。さらに栽植密度，幼穂形成期の生育量及び収量構成要素について検討したところ，その目安が得られたので同号の追補とする。

2 普及技術

- 1) 栽植密度は， m^2 当たり20株程度を目安とする。
- 2) 高品質を維持するために目標 m^2 当たり籾数は27,000～29,000粒とする。このときの目標収量は粒厚1.8mm以上で10a当たり570kgである。
- 3) 前記籾数を得るための幼穂形成期の生育量及び葉色の目安は次のとおりとする。

草丈 (cm)	茎数 (本/ m^2)	葉色 (SPAD)
65～68	505～535	35～37

- 4) 収量構成要素の目安は次のとおりとする。

m^2 あたり籾数 (100粒/ m^2)	一穂籾数 (粒/本)	穂数 (本/ m^2)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	収量 (kg/10a)
270～290	64～67	419～440	22.9	86～89	570

3 利活用の留意点

- 1) 6，7月の葉色は，「ひとめぼれ」に比べ濃く経過する。また，幼穂形成期の「こいむすび」と「ひとめぼれ」の葉色の差は小さくなるが，「こいむすび」は晩生のため同一栽培条件のほ場で並べてみた場合には「こいむすび」の葉色は濃くみえる。
- 2) 肥培管理は，普及に移す技術第75号（基肥ひとめぼれ程度，追肥は幼穂形成期に窒素成分で2kg/10a）による。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新品種栽培法の早期確立（古川農業試験場，平成10～12年）

優れた品種特性を生かした水稻栽培技術の確立（農業センター農産部，平成10～12年）

2) 参考データ

表1 栽植密度と成熟期生育、収量及び玄米品質（農業センター）

年次	品種名	栽植密度 (株/m ²)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精籾重 (kg/a)	精玄米重 (kg/a)	千粒重 (g)	玄米品質		窒素 含有率 (%)
									整粒 (%)	白粒 (%)	
平成11年	こいむすび	18.5	86.0	19.8	421	65.9	49.1	23.3	81.4	7.9	1.2
		22.2	83.7	19.3	486	66.2	48.7	23.1	74.2	9.6	1.2
		27.8	81.8	19.1	538	67.3	49.3	23.0	76.6	9.5	1.2
平成12年	こいむすび	16.7	82.0	19.6	389	71.2	55.7	23.3	73.7	10.0	1.1
		18.5	83.2	19.7	408	73.4	56.9	23.1	70.4	9.5	1.1
		22.2	83.2	19.7	446	74.8	57.4	23.0	71.5	10.3	1.1
		27.8	79.4	19.6	477	74.3	57.7	23.2	72.3	9.3	1.1
	ひとめぼれ	22.2	79.3	18.9	466	70.3	54.0	23.3	79.1	4.9	1.2

注1)玄米は粒厚1.9mmで篩別した。

注2)窒素含有率は、ニレコ米食味品質分析計model6500HONで測定した玄米粉の値。

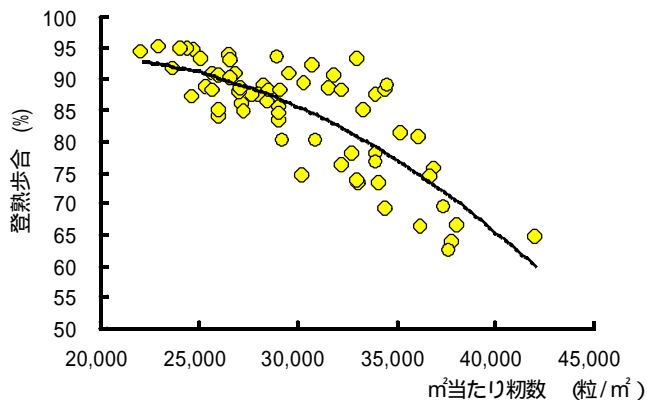


図1 m²当たり籾数と登熟歩合（古川農業試験場）

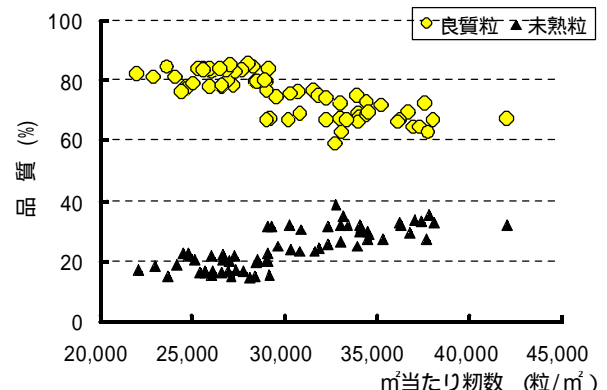


図2 m²当たり籾数と品質（古川農業試験場）

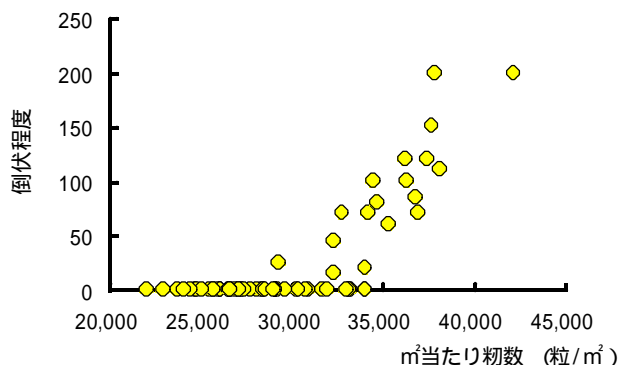


図3 m²当たり籾数と倒伏程度（古川農業試験場）

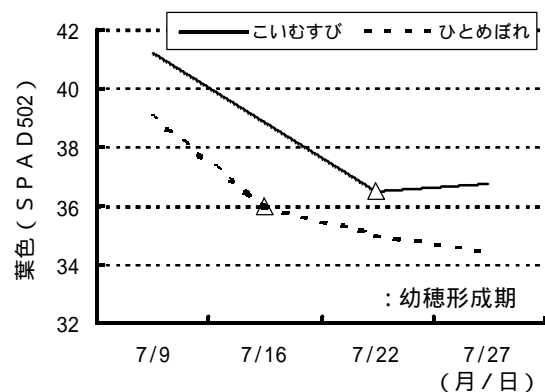


図4 葉色の経過（平成11年 古川農業試験場）

注)図1,2,3は篩目1.8mmで調製。精玄米重,千粒重は水分15.5%換算。

良質粒,未熟粒率は品質判定機(静岡製機RS-1000)で測定。

倒伏程度は0(無倒伏)~400(全面完全倒伏)。

3) 発表論文等

未定